

日高山脈ファンクラブの取組と日高山脈の国立公園化

高橋 健（日高山脈ファンクラブ事務局長・日高町在住）

■日高町への移住と日高山脈への想い、日高山脈ファンクラブの設立

私は埼玉県で生まれ育ち、子どもの頃から山に親しみ、高校ではワンダーフォーゲル部に大学では探険部に所属して日本各地の自然環境に親しんできました。大学卒業後に北海道の農山村で働きたいと思って来道して札幌で就職浪人生活を送っていましたが、縁あって1994年10月に旧日高町に就職でき日高山脈の懷で暮らすようになりました。

埼玉で暮らしていた頃から、日本の残された秘境として一生に一度で良いから日高山脈に登ってみたいと思っていました。しかし暮らし始めると、日高山脈に置かれている現状を目の当たりにするようになりました。旧日高町をはじめとする麓の町は、開拓期以降、原生林伐採による林業振興、電源開発、道路建設によって発展し、近年は道外の山村同様に林業資源の枯渇により林業が衰退し急激な人口減少が続いているにもかかわらず、公共的な開発委事業が続いていることに気づかされました。一方、国立公園としては日本最大規模を誇っていますが、自然の優位性を考えると国立公園レベルの管理で良いのか考えさせられていました。

下記は30歳当時の私が感じた思いを「北海道の自然2001年N039」（北海道自然保護協会誌）に寄稿した内容「日高山脈の魅力とファンクラブの活動」の一部です。若気の至りというか棘のある文面ですが、22年経った現在に通じる問題が包含されており、国立公園化にあたり自戒の意味も含めてここに転記します。

・・・日高地方を含め北海道が観光立県として「雄大な自然環境」を売りにして国内外から観光客を誘致しているが、果たして山麓に住む者が日高山脈の自然に魅力を感じ、原始性を残したいと思っているのでしょうか？住民の意識が開発一辺倒から変化しているとは思えません。それは山村の生活が開発事業に依存していることが一因と考えられるからです。

山村の生活基盤として自然と共存しながら成り立つ産業(生業)を育てていかない限り、開発問題は解決しないと考えます。

日高山脈の自然を次世代に引き継いでいくためには、住民も登山者も研究者も「市民」という共通の立場で学習し、体験し、行動していくことが必要です。その中から自然と共存できる産業や生活を考えていきたいと思い、日高山脈ファンクラブを立ち上げました。

「近年まで日本の残された秘境と呼ばれていた日高山脈は奥地まで開発が進み、さらに全国的な百名山ブームなどにより登山者が急増し高山植物の盗掘や登山者の排泄が問題視されるようになってきました。さらに21世紀を目前に控え、この日高山脈をどう次世代に伝えていくのか日高山脈の山懷に住み、山脈を愛する者として考え行動する必要性を痛感しています。そこで日高山脈を愛するあらゆる人びとがみずから発想し、ともに学びあい行動する市民団体としてファンクラブを設立しましょう！」と、

北海道山のメーリングリストや新聞を通じて呼びかけ、2000年5月27日に18名の賛同者を得て設立総会を開催し発足しました。

これからも単なる開発に対する反対運動ではなく、「日高山脈をどう次世代に引き継ぐのか」ということを会員がともに体験し、考え、学び、行動するなかから答えを見つけ出せるような活動をしていきたいと考えています。そのための調査や学習登山、エコツアー、エコミュージアム、世界遺産といった幅広い視点から山を見つめ直していきます。

日高山脈を共有する十勝・日高の住民がもっと関心を持って欲しいのですが、急がずだ

んだんと広げていければと思います。行政に依存することなく「市民」としてできることは何か、住民、登山者、研究者が手を組んで活動しています。まだ出来たての若いクラブです。みなさんもいっしょに活動してみませんか。・・・こう記していました。

■山のトイレを考えるフォーラム資料集寄稿表題から振り返るファンクラブに関わる活動

(1) 第3回資料集 (2002年)

日高山脈「幌尻岳」のトイレ問題について 平取町山岳会長 石森充

日高山脈、幌尻山荘における山岳し尿問題 北海道大学大学院生 田中あすか

山域毎の現状と問題点【日高山脈】

聞き取り先：清水町役場、日高山脈ファンクラブ、芽室山の会、中札内山岳会、
静内町役場総務部企画課、アポイ岳ファンクラブ、日高支庁環境生活課

(2) 第5回資料集 (2004年)

幌尻山荘のトイレについて 平取町山岳会長 石森充

日高山脈の山のトイレについての現状と問題解決策 日高山脈ファンクラブ事務局

(3) 第7回資料集 (2006年)

日高山脈・幌尻山荘トイレに係る活動を振り返って

日高山脈ファンクラブ事務局長 高橋健

山岳トイレ問題を解決するバイオトイレ (幌尻山荘設置バイオトイレ)

大央電設工業㈱代表取締役 町田喜義

(4) 第8回資料集 (2007年)

2006年度 日本百名山「幌尻岳」トイレ問題とその対策

日高山脈ファンクラブ事務局長 高橋健

(5) 第9回資料集 (2008年)

幌尻岳のトイレ問題とその対策

日高山脈ファンクラブ事務局長 高橋健

(6) 第10回資料集 (2009年)

2008年 幌尻岳の山岳トイレ問題とその対策

日高山脈ファンクラブ事務局長 高橋健

(7) 第11回資料集 (2010年)

2009年度 幌尻岳の山岳トイレ問題とその対策

日高山脈ファンクラブ事務局長 高橋健

(8) 第12回資料集 (2011年)

2010年度 幌尻岳の山岳トイレ問題とその対策

日高山脈ファンクラブ事務局長 高橋健

(9) 第13回資料集 (2012年)

幌尻岳の山岳環境保全活動報告、課題と改善策の提案

日高山脈ファンクラブ事務局長 高橋健

(10) 第14回資料集 (2013年)

2012年幌尻岳の山岳環境保全活動報告、課題と改善策の提案

日高山脈ファンクラブ事務局長 高橋健

(11) 第15回資料集 (2014年)

2013年幌尻岳の山岳環境保全活動報告、課題と改善策の提案

日高山脈ファンクラブ事務局長 高橋健

(12) 第16回資料集 (2015年)

一個人・一団体では守れない幌尻岳の山岳環境 10年間の日高山脈幌尻山荘排泄物

- 人力運搬を終えて
 (13) 第 17 回資料集 (2016 年)
 日高山脈の自然環境をどのようにして次世代に引き継ぐのか 幌尻山荘排泄物人力運搬を通して
 日高山脈ファンクラブ事務局長 高橋健
- (14) 第 18 回資料集 (2017 年)
 日高山脈の自然環境をどのように次世代へ引き継ぐのか Part2
 日高山脈ファンクラブ事務局長 高橋健
- (15) 第 22 回資料集 (2021 年)
 日高山脈の国立公園化と幌尻岳トイレ問題
 日高山脈ファンクラブ事務局長 高橋健

活動支援として、日高山脈北部日高側の登山道整備の協力を行っていましたが、ご覧のとおり、日高山脈ファンクラブという名称ながら、内実は「幌尻岳」とその周辺の活動とくに排泄物処理に係る活動に特化していたのが実情です。「幌尻岳」では登山中の死亡事故が絶えず発生していたことから「幌尻岳安全・マナー登山ガイドマップ」を作成して販売もしていました。



■2006 年 国立公園化に向けた講演会&スライド上映会を主催

国立公園化に関わる活動として 2006 年 5 月 13 日に「日高町」の道の駅を会場にして、日高山脈の国立公園化を目指す講演会&スライド上映会「日高山脈の魅力と国立公園化の可能性」を主催しています。2006 年 1 月に、北海道自然保護協会が環境省に国立公園指定の要望書を提出したのがきっかけでした。講演会&スライド上映会開催にあたっての案内文には、このように記載していました。

・・・現在、日高山脈の主要部は10万3千haにもおよぶ日本最大面積の国定公園に指定されています。環境省によると、「国立公園は日本を代表する、特にすばらしい自然の風景地を有する地域に対し、国定公園は国立公園には及ばない各地方を代表する美しい自然を有する地域で、面積は一般的に国立公園の方が大きい。公園管理は、国立公園では環境省職員が、国定公園では各都道府県の職員が行う。」となっています。果たして日高山脈は、このとおり国立公園に及ばない自然環境なののでしょうか？ 国立公園は国が管理整備し、周辺自治体には環境省の自然保護官事務所が設置されます。知名度は国立公園のほうが断然高く、現在以上の自然保護体制と経済効果が見込まれます。しかし指定には地元の要望が欠かせません。・・・

講演会&スライド上映会では、いずれも当時、同協会前会長で専修大学北海道短期大学名誉教授の俵浩三さんが「日高山脈と夕張山地・国立公園としての可能性」を、北海学園大学教授の佐藤謙さんが「日高山脈と夕張山地の植生」を、北海道大学総合博物館資料部研究員の在田 一則さんが「日高山脈と夕張山地の生い立ち」を、お話しくださり、植物写真家の梅沢駿さんが日高山脈の花の魅力についてスライド上映しながら語られました。

意見交換では国立公園化の利点や今後の運動方針についての議論が交わされ。地質構造や生態系が日高山脈と深くかかわりのある夕張山地を共に国立公園化すべきという提案があり、日高山脈ファンクラブと夕張山地の自然保全活動を続けているユウパニコザクラの会が中心となって、道内の山岳団体や自然愛好団体に呼びかけて運動を進めていくこととなりましたが、国立公園管理者の北海道庁の協力が得られず、国立公園化の運動は下火となっていました。

■活動再開は日高山脈国立公園化という報道・・・

山のトイレフォーラム資料集への寄稿が途中途絶えているように、幌尻山荘排泄物人力運搬事業が終わった 2015 年度から 2020 年度にかけて、当会の活動は登山道整備支援程度となって実質休眠状態となっていました。

そんななか突如として 2020 年 8 月、日高山脈が国立公園化されるというニュースが流れました。

・・・『日高山脈襟裳国立公園の国立公園化に向け、環境省は国立公園の指定を 3 年後の 2023 年 8 月ごろをめどに作業を進めていることが分かった。1981 年 10 月に道管理の国立公園に指定された日高山脈襟裳国立公園について、環境省は 2010 年、同公園を含む日高山脈周辺を「国立公園の新規指定」または「国立公園の拡張」の対象候補地に選んでいる。同省は、16 年度～18 年度まで 3 カ年かけ、日高山脈周辺の自然環境や利活用方法などを調査。この結果、同公園は傑出した地形地質や自然環境により国立公園の資質があると判断し、国立公園化の方針を決定している。19 年度以降は、国立公園化に向け、具体的な国立公園の区域、特別保護地区など地種区分、利用施設計画などを示した「公園計画素案(案)」を作成している段階だ。23 年 8 月ごろの国立公園指定予定は、様似町が環境省に確認し、町議会の所管委員会で報告している。同省北海道地方環境事務所を中心に策定している公園計画素案(案)は、まだ、日高、十勝の公園関係市町村に提案(意見照会)していない段階。新型コロナウイルス感染症対策として、計画策定担当者らは現在も在宅勤務による作業などが続き、計画作成はやや遅れている状況。「公園計画素案を市町村に示す時期は年内になるか、それ以降かはまだ決まっていない」(道地方環境事務所)と話している。公園計画素案は、各関係市町村への意見照会で必要に応じて環境省の協力を得ながら、地権者などとの協議を実施。素案区域で地権者の同意が得られない場合は、拒否権は各市町村にあり、国立公園の区域に含めない。その後、パブリックコメントを通して環境省案を完成させ、審議会に諮問し、官報告示で国立公園の指定となる。(日高報知新聞 2020 年 8 月 15 日記事より)』・・・・・・

日高山脈の国立公園化は、当会の悲願でしたが、この記事を読んだとき、手放しで喜ぶよりも不安の方が大きくなりました。それは日高山脈国立公園化を北海道庁が阻んできた歴史があり、とくに日高側において国立公園化に関して自治体や住民の機運が高まっているとはいえない状況だったからです。

また 2016 年の水害で日高・十勝双方の登山道に至る林道が未だに復旧していない状況にありました。

そこで日高山脈ファンクラブでは、結成以来蓄積していたデータや活動内容に基づいた国立公園化に向けた提案を環境省や自治体に行ったり、積極的に会合に参加したり、して日高山脈国立公園化に向けた活動を再開しました。

■2021 年度の活動

- 1 帯広自然保護官事務所との意見交換（事務局長対応）
日高山脈の国立公園化のために新たに開設された事務所に配属された担当自然保護官と当会の活動成果や国立公園化に向けた意見交換を7月13日と10月27日に行いました。
- 2 日高振興局長、道議会議員現地視察案内（稲垣悦夫副会長、事務局長対応）
日高山脈国立公園化に向けた日高町域視察資料作成並びに9月19日に行われたチロロ林道、パンケヌーシ林道への日高振興局長、道議会議員の現地視察案内を行いました。



チロロ岳から見た・・

左からパイロ岳、日高第三の高峰「1967m峰」、北トツタベツ岳、奥に幌尻岳山頂

（日高山脈の一級国道と称される縦走路があるが実態は未整備のヤブ道である）

日高山脈襟裳地域 国立公園化にかかる 現地確認

【日高町地域】資料

令和3年9月19日実施

日高山脈ファンクラブ作成

3 芽室岳登山道笹刈（山下真会員、城石謹爾会員、事務局長対応）

2016年の水害で通行止めとなっていた芽室岳登山口に至る林道が開通することにあわせ幕別町在住の山下会員が中心となり、関係機関と協議し、また山岳団体への呼びかけを行い、10月23日に十勝地区の北海道山岳連盟加盟山岳会や帯広地区労働者山岳連盟会員ら40名のボランティアが参集して登山口から標高1200m付近まで笹刈を実施しました。さらに上部は翌年以降に実施する予定です。



【芽室岳登山口に参集したボランティアの方々】



【背丈以上も伸びた
笹、仮払い状況】



【笹刈終了後の登山道】

4 日高山脈登山会議（日高町主宰）への国立公園化要望事項提出（事務局長対応）

下記が要望内容です。

【公園全体について】

（1）適正な公園利用・整備方針について

地域や車道の有無等によって利用者のレベルを想定した整備区分を行い、その区分に基づいた整備のあり方を検討し整備を行う。とくに歩道、避難小屋の整備と維持管理、山岳地帯の排泄行為についての方針決定と体制の確立を図るよう要望する。

各登山口に至る国有林林道は、平成 28 年水害以降復旧していない路線が多くあるが、日高山脈国立公園化に向けて十勝地方においては復旧が進んでいる路線があることから、日高地方の林道も早急に復旧するよう環境省、各自治体が連携し林野庁に働きかけることを要望する。

日高山脈登山の魅力は整備されつくされていない原始性を体験することである。標識等を設置することは原始性を保っている日高山脈の優位性を低下させることになるため、既存歩道程度の整備にとどめ、極力、架橋せず、標識は設置しないことを要望する。

近年、インターネット情報の氾濫により、地形図等の読解力や登山技術が未熟な登山者が初歩的なミスにより遭難し死亡事故に到るケースが日高山脈においても続発している。日高山脈は高緯度に位置するため、本州中部山岳地帯の 3000m 級の山岳に匹敵する過酷な気象条件下にある。日高山脈登山者は、各歩道に対応できる知識と技術、体力、装備を兼ね備えた者に限定するよう環境省等が各言語で告知し、対応できない者は知識と技術を兼ね備えた山岳ガイド等を伴った登山とするローカルルールを定めるよう要望する。

日高山脈襟裳国定公園管理者の北海道庁は、山岳地域に野営指定地は存在せず、野営を認可しておらず、野営はされていないものと判断しているが、実態は野放しで山岳地帯のあちこちで野営が行われ、植生破壊が進んでいるのが実情である。日高山脈同様に山岳地帯を主とする大雪山国立公園では、環境省・林野庁・北海道庁及び市町村（以下「山岳関係行政機関」）の合意により「野営指定地」を設けており、山岳関係行政機関が協力して野営場や野営指定地以外での野営禁止を指導している。よって日高山脈の新たな国立公園においても山岳行政機関の合意により主要山岳地の歩道周辺に野営指定地を設定し、指定地以外での野営禁止を指導し植生回復を促すよう要望する。

大雪山国立公園では、トイレがない野営指定地での排泄汚物、排泄行為に伴う植生の踏み荒らしが問題となり携帯トイレの使用を普及させるために、山岳関係行政機関と各山岳団体等が連携して「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」を平成 30 年に行っている。日高山脈においても原始性を保つためトイレを稜線やカール上に設置するのではなく携帯トイレを普及させる体制の確立を要望する。携帯トイレの普及には、山麓店舗での携帯トイレの販売、登山口での回収ボックスの設置と定期的な回収、各衛生組合等焼却場での焼却処分が必須であることから山岳行政機関の合意と対応が早急に図られることを要望する。

（２）日高山脈襟裳地域の新たな国立公園管理事務所の設置について

日高山脈襟裳地域の新たな国立公園面積は 20 万ヘクタールを超えるとされており、日本最大面積の国立公園である大雪山国立公園（22 万ヘクタール）に次ぐ日本第 2 位の面積を誇る国立公園となる。大雪山国立公園では、上川町に管理事務所が設置され、国立公園調整官（所長）、国立公園企画官、国立公園管理官が配属され、東川町と上士幌町に国立公園管理官（自然保護官）が配属されている。全国的に見ても国立公園指定区域に近い自治体に管理事務所が設置されることが多い。

日高山脈襟裳地域には現在、帯広自然保護官事務所とえりも自然保護官事務所の 2 か所が設置されているが、登山者が比較的多い登山道や稜線部を唯一貫く国道がある日高側北部には事務所が設置されていない。自然保護官・公園管理官が担う業務は各種許可、公園づくり、保護管理調査、利用施設整備・管理、自然再生、美化清掃と多岐に渡り、20 万ヘクタールにも及ぶ日高山脈襟裳地域を 2 か所の自然保護官事務所だけで管轄するのは現実的ではない。

日高山脈北部の国立公園指定区域はほとんどが国有林のため、日高北部森林管理署との協議が多くなる。また日高町日高地区には、先進的な野外教育を進めてきた国立日高青少年自然の家があり、町立日高高等学校・産業学習ではアウトドアコースを開設している。

さらに日高町日高地区には日高山脈稜線部を貫く唯一の国道 274 号線が通り、登山者以外の一般利用者が多く見込まれる地域である。新たな国立公園を管轄する環境省北海道地方環境事業所（札幌市）とは国道で繋がるとともに隣接する占冠村から高速道路や鉄道を介する公園利用者の玄関口になる。

このような地理的・社会的条件から日高町日高地区に、日高山脈襟裳地域の新たな国立公園を統括する国立公園管理事務所を設置し、国立公園調整官・国立公園企画官・国立公園管理官（自然保護官）の配属を要望する。

【日高町地域について】

（１）新たな国立公園施設計画「利用計画」搭載施設設置・整備について

環境省では、自然公園法施行令第 1 条の規定に基づき、「国立公園の公園計画作成要領等」を定め、公園ごとに、保護施設と利用施設からなる施設計画を策定している。利用施設内容を下記のとおり利用計画に搭載し、設置・整備するよう要望する。下記の号・名称は自然公園法施行令第 1 条に基づくもの。

第 1 号 1 道路（車道）

国道 274 号線日勝トンネル日高側から「日勝園地」へ向かう車道は、日高山脈襟裳地域の新たな国立公園の特別保護地域予定地並びに国の天然記念物「沙流川源流原始林」内にあり、景観に非常に優れている。冬期間は閉鎖されている。登山者でない一般利用者が利用できる唯一の道路であるが、未改良区間となっているため現道幅のままアスファルト舗装し、排水不良による洗掘で路面が荒廃しているため、必要最小限の排水施設及び安全設備（ガードロープ）の設置を計画搭載するよう要望する。

第 1 号 3 道路（歩道）

既存の北トツタベツ岳、チロロ岳、ペンケヌーシ岳、沙流岳の各歩道並びに北トツタベツ岳からピパイロ岳に至る縦走歩道（日高町と帯広市との市町境）については、日高山脈登山の特徴である沢登り（チロロ岳、ペンケヌーシ岳ともに沢登りあり）、特異な植生（日高山脈唯一のペンケヌーシ岳コマクサ自生地、チロロ岳や北トツタベツ岳の超塩基性岩植物）や地質（チロロ岳や北トツタベツ岳のかんらん岩）、氷河地形（北トツタベツ岳の三の沢カール）等を現道の優位性が認められるため、現道のまま整備し、整備主体を明確化し定期的な整備を計画搭載するよう要望する。

林道跡や沢等、自然への負荷を最小限にして開削可能なパンケヌーシ川からのルベシベ山、芽室岳西峰（通称；パンケヌーシ岳）各歩道を計画搭載するよう要望する。

ウェンザル川からペンケヌーシ岳に至る新たな歩道は、現地確認ができないこと、予定歩道が樹林帯であり展望が望めないこと、樹林帯のため開削及び維持に経費と労力を費やすこと等課題が多くあるため、現道登山口へ至る林道の復旧が確実に見込めない場合において計画搭載するよう要望する。

第 2 号 6 園地

第 4 号 10 展望施設 → 第 4 号 11 案内所

第 6 号 20 駐車場

第 8 号 34 公衆便所

日勝峠日高側にある「日勝園地」は、日高山脈襟裳地域の新たな国立公園の特別保護地域予定地並びに国の天然記念物「沙流川源流原始林」内にあり、駐車場・トイレ・展望施設・歩道・案内板が設置されている。既存トイレが地下浸透式のため周辺環境を汚損している。既存展望施設は木製のため劣化している。展望施設に登らなくても眺望は変わらないため、既存のトイレと展望施設を撤去し、日勝峠の歴史や沙流川源流原始林、大雪・日高緑の回廊等を解説する案内所を設置し、TSS 汚水処理システム等他の山岳地で実証さ

れている環境に負荷を与えないトイレを併設する計画搭載を要望する。また既存歩道を熊見山や沙流川水源（湧水）、日勝ピーク等に延長できないか検討を希望する。

第3号 8 避難小屋

日高山脈唯一の日本百名山「幌尻岳」へのルートのひとつである北トッタベツ岳コースでは北トッタベツ岳山頂が分岐点となり、南に「トッタベツ岳」「幌尻岳」、東に日高山脈第三の高峰「1967m峰」「ピパイロ岳」への歩道が続いているため登山者の多い地域となっている。登山口までの歩行時間も長く、天候が急変した際に避難する施設がない。またヒグマが多く生息する地域でもある。そのため北トッタベツ岳西部に位置するヌカビラ岳直下の草地へ登山者が一時的に難を逃れる避難小屋（付帯施設として携帯トイレ用ブース）の設置を計画搭載するよう要望する。

第8号 34 公衆便所

現在、貴会議において北トッタベツ岳登山口等に貯留式トイレが各1基設置されているが、北トッタベツ岳、チロロ岳、ペンケヌーシ岳、沙流岳の各登山口にTSS汚水処理システム等他の山岳地で実証されている環境に負荷を与えないトイレ（付帯施設として携帯トイレ回収ボックス（沙流岳を除く））を設置する計画搭載を要望する。

第9号 40 博物展示施設（ビジターセンター）

博物展示施設では、公園入口地域に対象地域の人文・自然を学習し利用情報を収集する目的で設置されており、調査研究やパークボランティア等の養成を行っている施設もある。日高町千栄地区は、国道274号線日勝峠、北トッタベツ岳、チロロ岳、ペンケヌーシ岳、沙流岳の各登山口の分岐点になっているとともに、海外からのアウトドア体験者を多く受け入れている北海道アウトドアアドベンチャーズ（民間企業）の事務所が設置されている。そのため国立公園化に伴って増えるだろうインバウンド客への対応について連携協議を図ることも可能である。よって日高町千栄地区へ博物展示施設（ビジターセンター）の設置を計画搭載するよう要望する。

5 北海道アウトドアフォーラムでワークショップ開催（山下真会員、事務局長対応）

12月2日に国立日高青少年自然の家で行われた北海道アウトドアフォーラムで事務局長が発起人となり、環境省帯広自然保護官事務所自然保護官、登山者、ガイド事業者、住民が参加してワークショップ「日高山脈襟裳地域 国立公園化の未来を考えよう」を実施しました。

【趣旨説明】

- ・日高山脈の国立公園化に向けて、現状や課題を整理しながら、未来像（ビジョン）を考えていく必要がある。
- ・いろんな立場の参加者で意見交換を行い、国立公園化の未来を考える機会にしたい。

【オープニングトーク】

- ・環境省：山北さん（環境省帯広自然保護官事務所）
「現在、北海道が管理している国定公園内はテント泊禁止だが、現状は多くの登山者がテント泊しており、テントサイトを設置すべきか意見を聞きたい」
- ・登山者：山下さん（日高山脈ファンクラブ）
「日高山脈の厳しさを正しく伝え、日高中部（主稜線周辺）は保護すべき、それぞれでやっている活動をつなぐネットワークが必要」
- ・事業者：高柳さん（植村直己帯広野外学校所属山岳ガイド）
「2015年の豪雨災害で林道が崩壊し、登山が難しい現状で、地元の登山ガイドはほぼ皆無、百名山の幌尻岳以外知られていない」

- ・住民：橋本さん（新ひだか町三石地区在住）

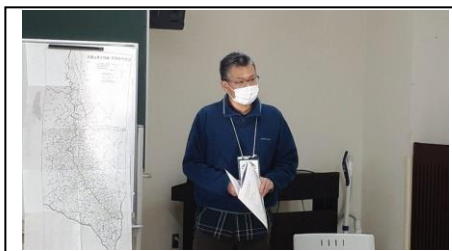
「毎日、神威岳を見ながら生活しているが、アポイ岳しか登ったことがない、国立公園化をどうやって地域振興に結び付けるかわからない」

【グループワーク】

- ・国立公園化の未来に向けて、各自話したいテーマを考え、グループでひとつにしぼる。決めたテーマについて、どうなってほしいか、どうしたいか（具体的な理想像）、そのためにどうすればいいか（具体的な対策）を考え、発表。

【まとめ】

- ・今回のワークショップのように、いろいろな立場、経験、意識の人が参加して、国立公園化の未来について意見交換を行う場が必要。
- ・国立公園の未来像（ビジョン）を設定し、実現に向けた方針や具体策を決めていくため、行政・利用者・事業者・地域住民を巻き込んだ協議会の設立が重要。



■環境省への期待と日高山脈ファンクラブ会員再募集

これから指定される国立公園では、日高山脈の山岳環境をどのようにしていきたいのか、という点を、国立公園管理者である環境省が率先して関係機関、団体、登山者、住民を巻き込み、異なる意見を討議し合い、調整し、合意形成を図って実践されることを期待しています。

そして日高山脈ファンクラブでも、日高だけでなく十勝の芽室岳などの登山道の点検・整備を他の山岳会や自治体などと連携し実施したり、登山口のトイレや避難小屋の実態調査を山のトイレを考える会と協力して実施したり、携帯トイレの普及を図るための回収ボックスや携帯トイレブースの設置場所や回収方法の検討を自治体に促したり、さらに国立公園化への地域住民の機運を高めるイベントを開催したり、して日高山脈ファンクラブを立ち上げたときの想いの実現を改めて図っていきます。

日高山脈ファンクラブ活動の目的

日高山脈の自然を次世代に引き継いでいくためには、住民も登山者も研究者も「市民」という共通の立場で学習し、体験し、行動していくこと、その中から自然と共存できる産業や生活を考えていくこと。

そのために改めて、会員になって一緒に活動していただける方を募集します。

年会費は 2000 円です。払込手数料は各自ご負担願います。

払込票に住所・氏名・電話番号・メールアドレスをご記載ください。

ゆうちょ銀行払込口座 口座番号 02710-9-58019

口座名義 日高山脈ファンクラブ

日高山脈ファンクラブ事務局 〒055-2301 沙流郡日高町本町東 2-108-9 高橋健方

メールアドレス takenhidaka055@gmail.com